

# 泉佐野市関連の書籍紹介

問合先

レイクアルスタープラザ・カワサキ  
中央図書館 (0469-7130)

日本の小説・エッセイ  
本市と関連のある書籍を紹介するこのコーナーでは、本市と関連のある内容の作品や、本市出身の著者の作品などを、今月からシリーズで掲載します。

## 今月の泉佐野市関連の書籍

泉佐野市税務課長  
975日の闘い  
ミッションインポッシブル  
- 関空連絡橋に課税せよ！

発行日  
令和3（2021）年6月15日  
発行社 文芸社

関西国際空港連絡橋の国有化という突然の暴挙により、年間ウン億円という固定資産税を失い一大危機を迎えた泉佐野市は、連絡橋に〈利用税〉を課すという苦肉の策を打ち出す。「そんなの無理やる！」と嗟われた前代未聞の難題に立ち向かった市の税務課長は、果たしてこのミッションをコンプリートできたのか？ 市の存亡を賭け国家権力と闘った、ある地方公務員のドキュメント。

※市立図書館でも貸出可能



【著者】  
竹森 知（たけもり とも）さん  
1958年石川県生まれ。  
大阪市立大学卒業後、泉佐野市役所に勤務し、2019年定年退職。

Q: この本を執筆することになったいきさつを教えてください。

A: 最初のきっかけは、千代松市長に「本を書いてみたら」と言われたことです。当初は、自分では本を執筆するのは無理だと思いましたが、できるはずがないと言われた連絡橋の課税が奇跡的に実現したというこの騒動を記録しておかないと、奇跡が起こったことが誰にも知らず、風化されてしまうと感じ、間近で見ていたその闘いの現場の臨場感を文章で表現して残したいと思うようになり、執筆に取りかかりました。

Q: 書き終え、出版されたときはどう思われましたか？

A: 自分では、書こうと思った以上のものが出来たと思えました。出版後に、会計・税務系の資格受験者がよく見られるサイトにおいても紹介されました。泉佐野市以外でも評価をいただいて、非常に達成感を感じています。

Q: この騒動から約10年が経過し、その頃の泉佐野市の状況を知るうえでも貴重な記録だと思いますが。

A: この10年で泉佐野市はふるさと納税を集めて大きく変化し発展しましたが、その直前の財政が厳しい時期は、大変な状況でありました。泉佐野市の70年間の歴史の中で、その最も大変な時期の記録を残すことができたと感じています。「報告書」ではなく「物語」として、楽しく読めるものを書いたつもりですので、会計税務関係以外の方も、臨場感をもって読むことができると思います。ぜひ多くの方に読んでいただきたいです。